

## 第2回縣市協調未来創造検討会議 議事概要

### <開催要領>

- 1 日 時 令和2年12月6日(日) 14:00～16:00
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル
- 3 出席委員 飯泉会長、内藤副会長  
松重部会長、吉本副部会長、田村(禎)部会長、田口副部会長  
浅香委員、生駒委員、岸田委員、木下委員、児嶋委員  
坂口委員、坂田委員、佐藤委員、田村(典)委員、寺内委員  
富永委員、長瀬委員、花柳委員、檜委員、藤原委員、松永委員  
松村委員、三木委員、御手洗委員、峯委員、矢田委員、吉森委員

### <会議次第>

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 「新ホール部会概要報告」及び「縣市協調新ホール整備基本方針(案)」について
  - (2) 「青少年センター部会概要報告」及び「新たな青少年センター整備基本方針(案)」について
  - (3) 意見・質疑
  - (4) 会長挨拶、副会長挨拶
- 3 閉会

### <配付資料>

#### 次第

資料 縣市協調未来創造検討会議「新ホール部会」委員出欠一覧

資料 配席図

資料1 新ホール部会概要報告

資料2 縣市協調新ホール整備基本方針(案)

資料3 青少年センター部会概要報告

資料4 新たな青少年センター整備基本方針(案)

資料5-① 県民アンケート「新ホール関係」の回答結果

資料5-② 県民アンケート「青少年センター関係」の回答結果資料

参考資料① 徳島市新ホール整備基本計画

参考資料② 位置図

参考資料③ 徳島県内の主なホール施設一覧

参考資料④ 各都道府県における最大規模の公立ホール施設一覧

参考資料⑤ 徳島市内の類似スポーツ施設の状況

<議事概要>

(部会長)

議事(1)について、資料1を報告

(事務局)

議事(1)について、資料2及び5-①を説明

(部会長)

議事(2)について、資料3を報告

(事務局)

議事(2)について、資料4及び5-②を説明

(会長)

それでは、ここからは、部会長さんたちのご報告、あるいは事務局からの説明、また、それぞれのお考えなども含めまして、委員の皆様から御発言を頂ければと思います。いかがでしょうか。

(A委員)

新ホールの整備に関しまして、何点かお願いですが、まず一つ管理運営について、県の直営にするか指定管理にするかとの提案があったわけですが、民間事業者が手を挙げるにしても、なかなか最初から手を挙げにくい状況になるのではなかろうかと思います。それと、文学書道館については、数年間は県が直営をして、その後、指定管理に至ったということ聞いております。民間事業者としても最初から手を挙げるのは厳しいものがあると思いますので、できれば、県の方で数年間直営していただいて、その後、指定管理に出すことになると、やり方等の大体の概略が分かってくるのではなかろうかと思います。

それから、新ホールの搬入口についても、11tトラックが2台、それから駐車場の確保を考えていただいておりますが、あわぎんホールの現在の課題から考えてみますと、是非大ホールと小ホールの搬入口を別にしてほしい。と言いますのは、例えば、あわぎんホールの場合でも、小ホールあるいは大展示室を県展等で使い、また、舞台で催し物があった場合、搬入口が非常に混雑するんですね。ですから、是非大ホールと小ホールの搬入口を別にするということを考えていただけたらありがたい。

それから、津波対策等も記載されておりますけど、あわぎんホールの場合、地下に電源装置がございます。ですから、是非電源装置は、高い場所に最初から用意しておくことが、この時代、適切なのかなと思います。

最後に、女性用トイレに並んでしまう場合があります。公演の休憩時間が短い場合、女性の方々に非常にご苦労をかけることもありますので、女性用トイレの確保をしっかりと考えて頂けたらと。その点について、よろしくご検討お願いできたらと思います。

(会長)

ありがとうございます。貴重なご提言を頂きました。確かに郷文も国文祭に合わせて、男性トイレの面積を半分、それから女性用の面積を倍にしましたが、それでも足りないというのが現状ということでもあります。ほかにいかがでしょうか。

(B 委員)

先ほど、部会長の方から、新ホールにつきましては、全国や世界から徳島を目指して来るとか、世界とつながる未来志向の施設というような説明がありまして、すごくワクワクしながら、聞かせていただきました。

また、青少年センターにつきましても、部会長の方から、現在の青少年センター以上に利用される、利用しやすい、また、アミコビル屋上の利用も含めて検討していただいているということで、非常に頼もしく聞かせていただきました。

一つ、私の方からお願いしたいことは、この新ホールにつきましては、徳島の中心地の将来に向けてのランドデザインが必要だと思ひまして、その中に新ホールがあり、青少年センターもあるという位置付けで構想をお願いしたいと思ひます。新ホールを中心にその周辺も含めて計画をしてほしい。もちろん、2025年に新ホールというのは、それはそれで凄いスピードで大事なのですが、何年までにこれができる、というような、未来に向けた徳島中心地のランドデザインをしっかりと描いていただきたいと思ひます。

徳島中央公園にもしっかりと繋げていただきたいですし、新しい駅の構想があるのであれば、さらに人の流れができて良いと思ひますし、また、広い駐車場は必要かと思ひます。それから、新ホールの周囲は、野外でも画面で鑑賞できるような文化的な広場として、コミュニティスペースになってもらいたいと思ひます。

本日、徳島ヴォルティスが、J1昇格に向けて頑張ってくれているのですが、やはり、徳島の魅力度を増していかなければいけないと思ひます。アフターコロナの時代は、都会への一極集中のリスクが浮き彫りになって、いよいよ地方の時代がやってくる、本格化するということで、徳島が移住先に選ばれる。Uターン、Iターンが実現する。徳島の魅力度をアップする起爆剤の一つとなってほしいと思ひます。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。是非、未来志向の県都のランドデザイン、こうしたものの一つの拠点になれるようにしたいと思ひます。

(C 委員)

先ほど指定管理のことについて、御意見がありましたので、1点お話ししたいと思います。事務局の方から、いろいろな全国的なホールの資料を出していただいているわけですが、指定管理としては、やはり公益財団法人が受けるケースが全国的に一般化してきていると思ひます。しかし、その中でも、最近ではアーツカウンシルというものが、東京、大阪、新潟、横浜、名古屋、宮崎、それから沖縄において行われています。これは、文化や芸術に係る事業を支援する組織であるわけですが、アーツカウンシルは、国や自治体との調整をしたり、政策提案をしたり、行政と距離を置いた専門家らにより支援する第三者機関として、助成の対象なども審査して、助成先を決めて、その後の活動を評価したりする。これがアーツカウンシルだそうです。指定管理とともに、そういった組織が加わっているというのが、これからのホールのあり方ではないかと考えております。

(会長)

はい。ありがとうございました。

(D 委員)

部会の場の議論については、部会長から御報告があったとおりで、この短期間でこの基本方

針案をまとめてくださった事務局の皆さん、大変だったと思います。その上で、これを今一步ブラッシュアップするために、こういうことも書き込んではどうかというのを申し上げます。

申し上げにくいんですけども、4の部分にドメスティックな印象があるんですね。徳島のことを強く出しすぎる。部会長も対外発信とか国際とか仰っていますが、それがちょっと読み取れない感じがします。国際発信をどこまで訴えるかわかりませんが、少なくとも国内を代表するホールにはなしてほしいと思うんです。それが感じられないというのは、作品の創造発信が明確に含まれていないからではないかという気がします。事業のイメージができてなくて、今日の資料でいうと基本方針案の11ページ目の、例えば、(1)とか(2)の辺りになると思うんですけども、阿波おどり、人形浄瑠璃、阿波藍、あるいは第九、邦楽、ジャズ、もちろん素晴らしいんですけども、それだけじゃない徳島の文化芸術を創って発信していくということが、やはり読み取れないんですね。

全国的な視点から見たときに、若い人にとって、徳島の文化は何かというと、米津玄師かもしれないし、アートの分野から言うとチームラボかもしれない。新しいものが生まれることがここから感じとれないので、是非書いてほしいんですね。特に施設の使命の(1)のところに「県民とともに、徳島の特徴的な文化芸術を創造し、魅力を発信する。」というところに、これとは別に、新しいものを発信すると書いてほしいと思うんです。それで、人材育成のことも書いてますけども、やはり、ここに若者が来ることによって、世界に通用するような新しい芸術文化に触れる、そのことによって、次の世代の米津玄師やチームラボが生まれてくると。そういうことが感じられる雰囲気には是非してほしいなと思います。

同じく11ページの(4)のところに県内外の多くの人々が集うということなんですけど、ここに当然、阿波おどりや人形浄瑠璃が入っていると思うんですけど、そうすると、もう少し観光という視点を書き込んではどうかと思います。阿波おどりにはお盆の時に来てもらうのが一番いいと思うんですけど、舞台パフォーマンスとしての阿波おどりもとても素晴らしいと思うんです。だから、例えば毎週一回利用頻度の少ない時間帯には、必ず大ホールで阿波おどりをしていて、それを旅行代理店と観光パッケージにして売り出す。そして、翌年の阿波おどりに来てもらうとか。浄瑠璃は大ホールでは厳しいので、小ホールとかスタジオで体験してもらって、阿波十郎兵衛屋敷とか、あるいは県の文化資産として各地にある農村舞台に繋げていく。経済効果を考えると、2000人集まって経済効果があるというよりも、先々の観光に繋げていくとか、県全域の経済を活性化するというアプローチが必要だと思うので、そういったことも書き込んでいただけたらと思います。

繰り返しになるんですけども、新しい舞台芸術の施設は、阿波おどりや人形浄瑠璃もできるんですけど、やはり素晴らしい音楽だったり、素晴らしいミュージカルなり、素晴らしい舞踊のための施設なんですよ。舞台芸術の専門施設であるということ踏まえて、この辺りに書き込んでほしいなと思います。

それから、2点目は、教育・福祉的な視点も書き込んでほしいと思うんです。国の政策の流れを踏まえ、アウトリーチ的な試みだけでなく、市内の小学5年生は必ずここで本物の舞台を体験できるとか、県の小学生全員は難しいとすると、南部、西部、東部に分けて3年かけて全員がここで観ることができるとか。あるいは、高齢者向けのプログラム。全国のホールで大きな話題になっているのは、高齢者にどう対応するかということなんです。施設的なバリアフリーというのがあるんですけども、お年寄りでも安心して参加できる、注目されているのは平日の昼間、普通は舞台に客が一番来ないんですけども、お年寄りには一番安心して行きやすいんですね。それでにぎわいづくりができる。そういうことだと思うんです。今、少子高齢化が進んでいますから、そこに対応するために、子供たちは徳島に生まれて良かったな、お年寄りには徳島で長生きしてよかった、こんなものが観られた、そういう施設には是非してほしい

と思います。

それと、施設計画については、1800席から2000席と、幅を持たせた形にまとまっていますけども、規模に関しては2000席欲しいという意見があり、是非そういう風にできたらいいと思うんですけど、あまり無理しないでほしい。敷地の規模もそんなに潤沢ではありませんので、無理やり2000席を入れると、施設全体として窮屈になってしまう。2000人が退場するときに、なかなか外に出られないことになる恐れがありますし、2000人ホールの3階、4階のバルコニーは、本当に急で怖いんですね。そういうことから、無理をしないで施設全体のことを考えてほしい。

最後にもう1点。長くなって申し訳ないですけど、2025年度中というタイムスケジュールがここで示されているのがとても大きいと思います。簡単ではないと思うんですね。建設だけで多分2年、1年半は掛かるし、テストランで半年は掛かる。そうすると後3年しかない。だけど、これを是非ぶれずに知事も市長も仰っているのだから、それをやってほしいと思います。

個人的な話になるんですけど、私の母親は歌うことが大変好きでした。市のホールができたからコーラスできるといいよねと言ってたんですけど、震災の年に亡くなりました。新ホールが遅れることによって、そういう想いを持った県民、市民がたくさんいるわけです。なので早くすることが大変重要なんですね。その時に心配なのが、今は反対意見はないと思いますけども、徳島はなぜか反対意見が出てくる。反対意見は出ないでほしいと思うんですけど、公共事業に対する反対や、ホールに対する反対、その時に重要なのが機運醸成だと思うんです。県民、市民が一丸となって、このホールを作りましょうと。全国に素晴らしいホールがありますから、徳島新聞、四国放送さんあたりが全国の素晴らしいホール取材いただいて、ホールがあるとこんな楽しいことがある、こんな未来があるということ、是非、応援してほしいなと思うわけです。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございます。大変重要な視点ということで、我々も常に思いをはせているところであります。ほか、いかがでしょうか。

(E委員)

何点かあるんですけども、今ホールに対して反対意見が出てくるだろうというところを踏まえて、僕も18年、徳島で音楽をやっていますので、文化振興、発展には、非常に期待を持っている人間であります、ということをお話させていただきます。今回2回の青少年部会で説明いただいたことのプラスアルファとして、県民アンケートの中で、今、青少年センターを利用されている人の中で、やはり体育に対するニーズが一番高い。稼働率も一番高い。周りの体育施設も7、8割使われていると。県から出されている代替案では、屋上にフットサル場やバスケットボールのコートが多少作れると一応出ていると思うんですけど、昨日の新聞でも報道されていましたが、市のスポーツ振興課、体育振興公社の方で、体育館で年間3万人がスポーツをしているところ、周辺施設が完璧に受け入れることは、現状の案では難しいのではないかと、というところが大きな課題になってくるのかなと思います。

もちろんホールを進めていくことは、いいことだと思うんですけど、やはりホールを進めていくことによって、新しくスポーツの方で大きな課題ができてしまうことに対して、こういう課題解決策をつくりますよ、ということと同時に進めていく必要があるのではないかと思います。現状案としては、近隣施設との連携、もしくはアミコの屋上にフットサル、バスケットコートをつくるというもの。この案が現実的に可能かどうか難しいと感じている中で、課題は大きなものとして残っていく。ホールができたことによっても、あふれることなく、3万人を受け入れて、どこかでスポーツができる環境整備を強く求めたいところであります。

それを部会に参加させていただく中で考えたときに、ホールの部会の方でも、警察署、そして寺島公園の敷地も利用できないかというお話も出てきたという中で、青少年センターの横の公民館もどれだけ利用されているかデータも気になっていたのも、青少年センターに比べてもかなり利用率は低いという現状がある中で、そこも含めて、何かビジョンを、グランドデザインを考えたときに、ホールももちろんですけど、子供たちが運動ができるような場所を提供できるような方法を考えられないのかな、ということも今後も検討していただきたいのが2点目です。

最後に、ホールの方向性に関して、これは全然違う話なんですけども、世界中でSDGsが国連の対策本部で推進しているところであって、やはり新しいホールの方向性の一つとして組み入れることも必要なのかなと思います。以上です。

(会長)

はい。ありがとうございます。特に参考資料⑤について、委員の皆さんに見ておいていただきたいのは、かつて青少年センターはプールがありました。吊り天井方式が危ないということで、このままではちょっと厳しいという中で、阿波おどりなどの音を鳴らすところがどこにもないと、若い皆様方との対話集会で言われ、今後、フットサル、インドアテニスみたいなところがあってもいい、そういう中で、実はここに書いてある障がい者スポーツセンター、これは障がい者交流プラザのオープンに合わせて、実は温水プールを向こうに整備をして、特に障がい者の皆さんたちだけでなく、健常者の皆さん方も、そして、特に高齢者の皆さん方にとっても、スロープをそのまま、実はプールの中に入れていけるということがあって、その機能を向こうへもっていく形、さらに、あそこに大きな体育館をつくっていますので、これが障がい者スポーツセンター、フットサル、屋内プール、そして体育館。また、フットサルにつきましては、多くの皆さん方が、フットサルを民間の方でつくる、マリニピアのところにもできている。また、さらには、蔵本の野球場のところにも体育館がありまして、非常に老朽化していて、使い勝手が悪いというお話をお聞きし、ここもちょうど駐車場を全部改装するに当たって、ここを手を入れるという形を書かせていただいているところではありますが、こうした形で青少年センターにつきましても、どんどん老朽化する、使い勝手が悪くなる、そうしたものをどんどん市内に配置をしてみたり、あるいは、もともとは県立の話でありますので、その後、例えば、藍住の体育館、これは市立体育館よりも、もっと大きいものできていますし、つい最近では吉野川市の方にアリーナ機能もできました。

また、フットサル、バスケットで言いますと、鳴門市、ちょうど競艇場の耐震化、津波対策を行うに当たって、UZUPARKができあがるという形で、それぞれ徳島市内に、あるいはその周辺、隣接地域に新しい機能を持つ中で増やしていつている。こうした状況を是非視野に入れて、人口減少という中、またライフスタイルが変わるという中、今あるものをそのまま移すのかというだけの話ではなく、稼働率、今も仰ったように、こうしたものを含めて、あるエリアだけではなく、徳島市内あるいは隣接地域、なんといっても県の施設であるということもお考えをいただきたいと思います。

また、SDGsについては、大変重要な点をいただきましたので、しっかりと取組みを進めたいと思います。

(F委員)

まず県民アンケートの内容、あるいは県から示された資料などを見まして、少し不安を感じるところとか、私たちの団体あるいは多くの青少年団体、業者から声をいただいているんですけど、青少年センターの移転で、青少年センターではない何かになってしまうのではないかとことです。これにいろいろ根拠がありますが、時間がないのでここでは言いません

が、不安があるという前提でお願いしたいことがありまして、我々の青少年団体というのは、センターに新しい価値を付け加えるのに反対しているわけではないということです。ただ、青少年センターを日常的に利用した青少年、あるいは青少年の健全育成、指導者養成してきた非営利の団体が今後も拠点として活動を続ける環境を整備いただきたいということです。青少年には家庭と学校と第三の居場所が絶対に必要だと思っています。それは大人の責任で手当をすべきだと思います。今までも、いろいろな団体が多様な受け皿となってきたわけですが、センターが活動の拠点になってきたわけですから、その部分は必ず残していただきたいというふうに考えてます。

新ホールが私が生きている間にできてうれしいと思っています。これによって、文化を大事にすることを示していくのは素晴らしいと思うので、それと同時に、徳島は青少年をサポートしていく、子どもを守る街だと、センターで示してほしいと思います。

(会長)

委員のお話、アンケートにも出ていると思います。青少年から50%出していただいているところで、当然ながら、青少年の各団体の場所が変われども、こうした拠点にしていく環境を。私たちとしても、センターの名前を変えるわけではないので、団体の不安の必要はないといった部分だけは理解をしていただければ。より便利になり、ぜひ列車を使ってということです。

(G委員)

市のホールが無くなってかなりになります。やっと2025年という年が示された。その間、県都の徳島市にはあわぎんホールしかない状況が続きますので、本来であれば駐車場になっているはずの徳島県教育会館の大ホール。それを徳島市と連携して助成をいただいて、使える状況が続いております。それも消えるという話をちらっと聞いています。ぜひホールができるまでは、県市で、教育会館のホールが存続できるような助成事業を何かやっていただければ非常にありがたいというのが1点。

新しいホール、音響技術とか、最新技術が導入されるとか、いろいろなものに対応できるんですが、いろいろなホールで演奏してみると舞台上では非常にいい音がする。反響板もあって、指揮者の位置ではいい音が聞こえてくる。ですが、客席にいくと音がだんだん廃れていくというか、客席に届いてこない場所が多くあります。舞台上で演奏しにくいホールもあります。客席では聞こえるのに、舞台上では演奏しにくい、いろいろなホールがあります。徳島のホールとしては、ベートーベン第九とか演奏されると思うので、オーケストラピットの位置にオーケストラが乗る、実際の舞台は合唱団がほとんど乗ってしまうので、オーケストラが前の方に出てくる。それと、バレエとかオペラとか、当然オーケストラピットで演奏する。そういうときに客席での音響が大事になってくるので、オーケストラピットで演奏してもいい音が届けられるホールとして、具体的に検討が進んでいく中で配慮してほしい。

もう一つ、ホール(旧徳島市文化センター)ができたころから、ホール内の騒音がありまして、できて7、8年の時に、ある公演でこの音どうにかならないかということで、エアコンを止めて本番しました。ぜひとも、NC値をいいと思うレベルまで下げていただければと。ぜひとも配慮をお願いしたい。

(会長)

これまでの経緯といいますか、配慮ということかと思っています。確かに新ホールまでの繋ぎの対応は重要なところで、先ほどのスポーツ施設の話でもありましたが、今後、手段を考えていきたいと思っています。音響はおっしゃるとおりです。徳島文理大学のむらさきホールはキャノピーによって音響変えることができるわけです。ただ単にホールだけではなくて、音響技術を活

用することによって、お客さんの数、あるいはオーケストラをどっちに持ってくるのか、合唱が入ることによってオケの位置が変わる、こうしたものもプロの音響家の皆さんは当たり前に対応できることになっていますので、すべてを施設で行っていくのではなく、ハードとソフトで工夫をこらしていきたい。振動の点については言うまでもないです。

(H委員)

他県の4層ホールに集まって会をするわけですけど、一番上は無理矢理入れているんです。下を覗くと、演劇とかされている方の頭しか見えない。顔が見えない。無理矢理2000席に拘らずに、ゆったり見えるホールにしていきたい。

それと、手前味噌ですけど、木造構造で日本一が山形県の南陽市1400席ぐらいです。ということは2000席も木造でできないはずはないんで、20000㎡、180億円、平米90万ぐらいですから、できないことはない。話題性で行くと県産材を使うのであれば、木造を考えてもいいのかと思います。

先ほどもお話をされていましたが、中央公民館ですね。他の委員さんも言われてましたが、稼働率が27%。ホールをリハーサル室とか会議室とか県市協調で行かれるのであれば、改修されて、中央公民館をホールのサブとして利用していただければ。どう考えても大ホールと小ホールをあのエリアに入れていくのは、業界の勘ですけど厳しいんじゃないかと。附属施設を中央公民館に使うようにすれば、部屋として余裕が出てくるので、ゆったりとして入るんじゃないかと思います。

(会長)

貴重な提案ありがとうございます。確かに木造ホールとかですね。ただ、建築基準法がありますので、様々な工夫をできればと思います。

(I委員)

音響のいいホールにしていきたい。女性のトイレも一番大事だと思います。外観の問題ですけど、徳島城がないんで、外観を城に似たものにできないか。これはすごく高くなるということであれば無理は言わないんですけど、お城のホールがいいんじゃないか。上だけでもお城の形にしてはどうかと考えていました。これは予算とか時期の問題がありますので無理は申しません。面白い話ではないかと。前から思っていたこととございます。

2025年に向けて、できるだけ早く仕上げていただきたいと思う。昨日もアスティで見せていただいたんですけど、いろんなホールがあれば、阿波おどりを休まずに、3箇所、4箇所あったら、8月のお盆も休むことなしに楽しんでいただけるんじゃないかと思います。コロナが収束するか分からないんで早く仕上げてほしいと思います。

(会長)

確かに、鷲の門の近くですのでね。

(J委員)

見栄えが大事だと思うので配慮ください。使い勝手のいい、稼働率が上がりやすいというのが経済効果、今後のことを考えて非常に必要であり、稼働率を上げていく策。ハード的なことをいうと、何かに特化をしていくと他で使いにくいかもしれないので、新しい技術を駆使して、臨機応変に対応できるようにするのも稼働率を上げていく方法かと思っています。主催者側の予約の仕方とか、デジタル化の中で、ワンストップで分かるとか。規約、キャンセル料規定とか、申込用紙が施設によって違うのを、これを機に県立・市立の施設を含めて使いやすく



統一することが使い勝手をよくする一つの方法。

それと最後に、県民、市民の期待があるので、多様な要望があって全てを叶えられないという中で、駐車場があるにこしたことはないんですが、限られたスペースなので、アンケートにあるような駐車場は難しいことを理解しなければいけない。ゼロカーボン、車、マイカーに頼らない駅から歩いて通いたいと思えるような方法。JRは難しい部分もあると思いますが、全国広しといえども、ホールにJRの駅が直結するのはなかなかないと思いますので、期待が大きいだけに要望が叶わなかったときに、否定的なことになるのが徳島のよろしくないところ。先ほどもありましたけど、議論するときには議論をして、決まったときには一致団結して、ヴォルティスのようにチーム徳島となって、いい施設の盛り上げ、機運の醸成が大事かと思いません。

(会長)

文化施設の共通の部分は、体育施設と同じだと思いますので、ハードの面だけではなくソフトの利便性をもっと考えないと、多くの皆さんに満足していただけないということがありますので。なんといっても、これから日本で、電子でやっていく、DXの時代になると言われていますので、そういう先駆けとなっていければと思っています。

(K委員)

マチアソビを10年間続けさせていただいて、今回、青少年センターの移転に関して委員となって、いろいろ話を聞かせていただいた。今回、アニメ、eスポーツを青少年センターの新しいコンテンツとして、お声がけをいただいて嬉しいです。サブカルチャーということで、一部の年代、子どもさんだけという感覚があったんですけど、今回、鬼滅の刃の映画もジブリに迫る勢いですごく幅広い年代に観ていただいていることで。先ほど他の委員さんが言いましたが、青少年センターとして残していかなければならない機能は絶対にあると思います。それは大事にしつつ、時代とともに追加していくことがないといけないと思う。

今回、アニメとかeスポーツがどういう形で新しいセンターに貢献できたり、今は結論がきちっと出てないわけですけど、うまくまとめていただいて、日常のレベルとしてアニメを体感できるスペースがあれば、アニメの街ということの一つの打ち出しになると思います。そこをまだまだ考えていかなければならないと思うんですけど、私は徳島のために活用して盛り上げていくことがあってもいいと思いますし、青少年も大人の社会と一緒に、多様性が今の時代はあると思うので、そういうところを含めて、これから考えられたらいいと思います。

(会長)

鬼滅の刃のお話もありました。ユーフォーさんが制作しています。すでにタイタニックを抜いて、あとは千と千尋の神隠しだけと。最終回につきましては新聞の全面広告にもなって、束になってネット上にも回っている。大変な現象になっている。サブカルチャーではなく、クールジャパンの代名詞として、徳島からはメインカルチャー、マチアソビの度に私も言わせていただいております。

(L委員)

未来志向のホールができあがるということでわくわくするところです。ぜひ地元の若者が活動できるホール、全国ツアーのイベントがどんどん来てくれるホールにしていきたいと思う中で、舞台の広さが大事ですし、客席の大きさも大事だと思うんですけど、搬入口が一番大事だと思います。大きなイベントは4、5台のトラックが来ますよね。荷下ろしに時間がかかりますし、大変だという話を聞きます。搬入口の経路ですよね、経路に十分気を使っていた

きたいと思います。

それと、座席ですけど、これからの社会的なスペースって、コロナがあってから思うんですけど、窮屈ではなくて、隣の人と芸術を楽しむという感覚が定着した気がするんですね。劇場に入ったとき、ゆったりとした設計を考えてほしいと思います。

それと、ホールのスタジオのイメージが分からないですけど、青少年センターの方にも、音楽の練習、発表のスペースがあったような気がするんです。そこと今度のホールの棲み分けが分からないと思いました。ホールの方にも若者にきてほしいし、検討してほしいと思いました。

(M委員)

舞台のことが出ましたので少し。セリを配慮いただいてありがとうございます。舞台の広さということで、袖も考えていただいて、それもよろしいのですが奥行きが入っておりません。ちなみに、どれぐらいの大きさがベターかと言いますと、舞台と同じぐらいの奥行きがありましたら、これから先にオペラなんかも呼ぶときに十分動きやすいと聞いています。面積もあると思いますけど、考えてください。歌舞伎とか邦楽の方がいらっしゃいますので、楽屋には畳の部屋も考えていただければと思います。

(会長)

舞台の奥行きというのはたしかに仰るように。ただ、ヨーロッパのオペラでは奥行きで勝負するわけじゃなくて、回り舞台になっているんですね。日本でも、あるホールでチャレンジしたんですね。ですが、なかなか支援とお金が足りなくて、全面回り舞台にはできなかった。それに近いものを造ったんですが、これもなかなか大変でした。ただ、今はLEDをはじめ、様々な映像技術、あるいはLEDスクリーンなどを活用して、すでに徳島でやったことがあるんですけど。技術的カバーをするということで、ぜひ参考にさせていただければと思います。

(N委員)

青少年センターに限らずですけど、これからの施設の考え方として、施設の中で内部完結させないことが大事だと思います。いろんな機能を施設の中に、という気持ちが出るころですが、せっかく中心市街地にできますので、周辺の民間施設との連携を意図的に書いてほしいと思っています。青少年でいうと、基本方針案の11ページに近隣施設との連携とあるんですが、公共施設ですよ。アニメ、eスポーツ、そういったものは既に民間で走っているものもありますので、どちらかというと、アウトリーチ的に町の中に広がっていかないと。ホールも同じと思うんですけど、周辺と一体感があるような施設計画にさせていただければと思います。

(会長)

大変重要な視点でありまして、もとよりマチアソビはそういう視点で徳島市内全域を、さらには文化の森まで取り組む、ということで、どんどん外周を広げていくパターンになっている。官民関係なく徳島の全域を使う。場合によっては近隣の市町村と連携を図る。こうした点が重要ですので、しっかり対応していきたいと思います。

今日は、両部会長、各委員の皆様方から貴重な御意見を賜り、今後の大きな方向性を作り上げることができたのではないかと考えております。事務局においては、今日の会議でいただいた点をしっかり咀嚼し、基本方針の中にいかに活かしていくか、ここが大きなポイントになると考えておりますのでよろしく申し上げます。